

2023 年度活動報告

はじめに

2024 年 5 月をもって、引退馬協会は設立から 14 期目を終了しました。支えてくださっている会員の皆さま、ご寄付やボランティアを通じてご支援いただいている皆さまに、心より御礼申し上げます。

フォスターホース（以下、FH）の見学については年度内に概ね正常化し、たくさんの方が FH の見学に訪れました。また、ふれあいイベントを本格的に再開するなど、活気が戻りつつあります。

各事業に関する詳細を以下に報告いたします。

*本報告書は、「2023 年度事業報告」の別紙として作成したものです。事業の掲載順や各項目の番号は、「2023 年度事業報告」に準じています。

1) 馬と人のふれあい事業



「FH と過ごす日」(千葉)

本事業は「馬と人」のつながりに重きを置いた引退馬協会の基幹事業のひとつです。直接馬とふれあうことで、そのぬくもりを感じて親しんでいただき、馬という動物への理解を深めていただくための、大切にしている活動のひとつです。

以下が詳細です。

① 「FH と過ごす日」等イベントの開催

2020 年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響で休止していた「ふれあい事業」がようやく正常化しつつあり、千葉県の乗馬倶楽部イグレットでは「フォスターホースと過ごす日」(3 回)と北海道の南幌ライディングパークでは「アサクサデンエン・ザッツザブレんティと遊ぶ!」(2 回)を開催しました。



リーディングの指導を受ける参加者

千葉では延べ 72 人、北海道では延べ 25 人が参加しました。手入れや引き馬を体験していただきました。これらのイベント以外にも、各地の FH 見学にたくさんの方が訪れています。



馬に頬ずりをする参加者
(ノーブルマーズとともに)



顔を拭いてもらって気持ち良さそう
ザッツザプレんティ (中) とアサクサデンエン (右)



② 乗り方指導・馬の接し方講習会

千葉と北海道ではイベント開催時のみとなっていますが、福島では対象に制限がありますが、FHのヴァーゲンザイルや被災馬FHのおにくん(ナイキプラネット)にて接し方や手入れの指導が予約制で行われています。

③ 専門家を招いての講習会

2023年度は実施しませんでした。

④ 「引退競走馬の再就職支援プログラム」による安全に接することができる馬のリトレーニングの実施

「引退競走馬の再就職支援プログラム」では、引退した競走馬が、人と穏やかに暮らすための馴致調教を行います。人間との信頼関係の構築のために、基本的なマナーを身に付けたり、人間のペースに合わせて歩く、指示通りに乗馬としての常歩・速歩・駈歩を行う基礎的な運動を中心にリトレーニングを実施して、馬の性格や能力を把握し、それぞれの馬に適した場所へ譲渡することを目指しています。

2023年度は新たに10頭が入厩しました。6頭が卒業(うち、1頭がフォスターホース(FH)に)、1頭が永眠しました。新規で受け入れた10頭はナイスネイチャ・34歳のバースデードネーション(34歳 NNBD)の対象馬で、集まったご寄付によりリトレーニングを行っています。

再就職支援プログラム参加馬

	馬名	プログラム期間	調教施設	用途または譲渡先 (繋養先)
25期生	トリップオブラブ	2020/8/5-2023/11/30	福島県 厩舎みちくさ	フォスターホース NPO 法人ホーストラスト
32期生	タカラシップ	2022/4/1-2024/3/27	千葉県 乗馬倶楽部イグレット	乗馬 ラブリーホースガーデン
35期生	ニットウイロन्दル ★	2022/7/10-継続中	北海道 ワタナベ リトレーニング ファーム (移動待機中)	譲渡可能
36期生	マイネルユニブラン ★	2022/7/3-2024/5/24	群馬県 かなやま森林馬事公苑 KRC 乗馬クラブ	企業のふれあいホース ホースリゾート・S
37期生	クリノダイスーシー ★	2022/7/25-2024/5/24	千葉県 乗馬倶楽部イグレット	乗馬兼コンパニオン ホースリゾート・S
38期生	マイネルミシシッピ ★	2022/8/1-継続中	千葉県 乗馬倶楽部イグレット	未定
39期生	ノーブルマーズ★	2022/9/6-継続中	千葉県 乗馬倶楽部イグレット	未定
40期生	インカラム★	2022/10/6-継続中	千葉県 乗馬倶楽部イグレット	未定
41期生	ヴァレンタイン★	2022/11/1-継続中	群馬県 New Hope Stables	未定
42期生	ルナーレス★	2022/11/28- 2023/11/26	北海道 早来エクワインファーム	乗馬 彩ホースランチ
43期生	ユキザクラ★	2023/1/11-継続中	群馬県 New Hope Stables	未定
44期生	ロゼフェニックス★	2023/1/31-継続中	茨城県 ヴェルデファーム	未定
45期生	シチリアノアガタ★	2023/2/17-継続中	群馬県 乗馬クラブアリサ	未定
46期生	ナカザルオー★	2023/6/21-継続中	長野県 美義屋牧場	未定
47期生	マロンカグラ★	2023/7/22-継続中	茨城県 柏乗馬クラブ	未定
48期生	タッチベガサス★	2023/7/22-継続中	茨城県 ヴェルデファーム	未定
49期生	シンラバンショウ★	2023/9/22-2024/5/29	北海道 早来エクワインファーム	個人宅 乗馬兼コンパニオン
50期生	ラブアダブダブ★	2023/10/20-継続中	北海道 ワタナベ リトレーニング ファーム	ふれあいホース候補とし て譲渡先を募集中

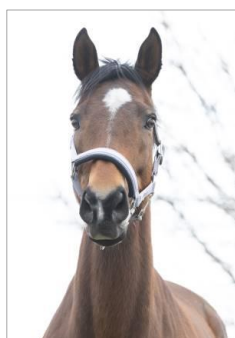
特定非営利活動法人引退馬協会
2023年度活動報告

	馬名	プログラム期間	調教施設	用途または譲渡先 (繋養先)
51期生	クーザ★	2023/11/11-継続中	佐賀県 内田乗馬クラブ	未定
52期生	ウインゴライアス★	2023/11/22- 2024/5/15	群馬県 乗馬クラブアリサ	永眠
53期生	ユアーズトゥルーリ ★	2023/12/18-継続中	北海道 早来エクワインファーム	未定
54期生	トピアリスト★	2024/5/15-継続中	北海道 早来エクワインファーム	未定
55期生	ベローナカグラ★	2024/5/29-継続中	千葉県 乗馬倶楽部イグレット	未定
2024年度以降の受入れ馬				
56期生	タッチライフ★	2024/6/28-継続中	北海道 早来エクワインファーム	未定

★：ナイスネイチャ 34歳のバースデードネーション（34歳 NNBD）受け入れ対象馬



ルナーレス



トリップオブラブ



タカラシップ



マイネルユニブラン



クリノダイスーシー



シンラパンショウ

再就職支援プログラム
卒業生(卒業順)

タカラシップは静岡県の乗馬クラブ、ラブリーホースガーデンへ譲渡しました。ルナーレスは穏やかな性格と小柄な馬体、安定した動きが評価され、埼玉県の彩ホースランチへ初心者用のレッスン馬として譲渡しました。マイネルユニブランは企業のふれあいホース兼乗馬、クリノダイスーシーは個人の乗馬兼コンパニオンとして共に、愛知県のホースリゾート・Sへ移動しました。

シンラバンショウは長年自宅で飼っていた愛馬を看取った方が、再び馬との生活を考えていたところ運命的な出会いと感じ、リトレーニング中も何度も足を運び晴れて迎え入れていただきました。馬の専門の獣医師のいない地域への譲渡でしたが、これまでも入厩時のセカンドオピニオン等で相談に乗っていただいた JRA の医療相談から、一歩進んで牛の獣医師や譲渡先とのオンライン診療への道を拓くことができました。馬の獣医師は特定の地域に集中しており、全国的に馬を専門に診ることができる獣医師が不足しています。そうした中で、JRA のバックアップが得られたことは大変画期的でありがたいことです。

トリップオブラブは昼夜問わず 24 時間牧草や青草が食べられる環境に置くことが一番の疼痛防止になると考え、譲渡を断念し FH として NPO 法人ホーストラスト（鹿児島） に移動しました。環境が適しているようで、移動してから 7 カ月、一度も疼痛を発症していません。

タカラシップが卒業、トリップオブラブが FH になったことから、プログラム継続中の馬は 34 歳 NNBD 対象馬のみとなりました。



ウインゴライアス

ウインゴライアスは去勢手術後に、麻酔から覚醒して立ち上がったあと、心不全で亡くなりました。ウインゴライアスは片方の睾丸が中にもぐっていたため全身麻酔での手術しか選択肢がありませんでした。まだ 8 歳と若かっただけに残念です。ウインゴライアスのご冥福をお祈りいたします。

34 歳 NNBD により再就職支援プログラムに参加する馬は、引退後最低でも 1 ヶ月は休養して現役時代の疲れを癒し、怪我がある場合は完治してからの入厩を原則としています。その療養の期間の 2 ヶ月目からは、預託料補助が毎月最大 5 万円を上限として半額が補助されます。また、入厩前にかかった医療費は、10 万円までの医療費と、別枠での去勢手術代が助成されます。2023 年度は、入厩前の療養時の預託料助成（623,804 円）と医療費助成（190,160 円）を行いました。助成金額は合計 813,964 円でした。療養時の預託料の助成金の財源は、34 歳 NNBD のご寄付、医療費助成の財源は JRA の奨励金を充てています。

2023 年度より、佐賀競馬を引退したクーザの調教を、再就職支援プログラムの卒業生ヴァッラータの譲渡先の内田乗馬クラブにお願いしています。また、譲渡後休養させている美義屋牧場、かなやま森林馬事公苑の閉鎖により馬が移動したKRC 乗馬クラブと合わせ調教委託施設に加わり、計 12 施設に馬を在厩させました。

2023 年度は、引退繁殖牝馬からのプログラム入りが 3 頭ありましたが、年齢が高い馬、出産経験が多い馬は転用の難しさを感じています。限りある財源を有効に使っていくためには、ふれあいホースしての情報発信や譲渡に力を入れるとともに、事前の適性診断の必要性を感じています。

ナイスネイチャ 34歳のバースデードネーション（2023年度）収支報告

（単位：円）

収入		支出	
前年度繰越金	40,636,825	預託料	26,455,110
寄付	33,000	飼料費	1,563,860
		装蹄料	1,555,110
		馬医療費	2,080,071
		馬運代	98,200
		馬消耗品費	383,212
		通信運搬費	2,069
		支払助成金	813,964
		振込手数料	15,390
		雑費	129,090
合計	40,669,825	合計	32,905,916
		次年度繰越金	7,763,909
		（内、プール金）	5,200,000
		（内、未振替特定資産）	1,965,097

※2022年度のクラウドファンディング決済手数料1,965,097円が、特定資産から振替もれとなっているため、2024年度で振り替えます。

※通信費：馬着送付代

⑤ 「引退馬の眠る丘」プロジェクト準備

今まで当会でもたくさんの馬との別れがありました。亡くなった馬たちを思い出し心の拠りどころとなる場所をつくりたいとの願いから始まり、馬の種類や出身にかかわらず関係者の希望によりたてがみを納め名前を刻む場所をつくりたいという気持ちに発展しました。北海道浦河町の優駿ビレッジ AERU 内に亡くなった馬たちのためのメモリアル碑を作る計画が、同役場（関係者）と AERU（関係者）、および日高軽種馬農協の副理事長の谷川様と話し合いながら計画を進めております。

⑥ 「馬のいる風景」づくり

事業費は発生しませんでした。当会独自の施設を持たず、各地に預託をすることで、「馬のいる風景」づくりに寄与しています。

⑦ 見学ツアー

見学ツアーの実施はありませんでしたが、2024年度のツアーの経費が既に発生しています。

2) 啓発事業

当会への理解と引退馬や馬の福祉への関心を高めるため、インターネットでの情報発信や、写真展の開催など、さまざまな形での啓発活動を行いました。

① 引退馬に関する情報発信・各種広報活動

FHの近況や再就職支援プログラムの調教の様子、預託先情報の掲載などのホームページやSNSで発信しました。専任スタッフの配置により、これまでより効率よく情報の発信ができるようになりました。

② 会報(RHA通信)・活動報告書の発行と送付(印刷版・PDF版)

正会員(一般会員・FP会員)、後援会員と、賛同会員のうち会報購読(有料)を希望された方に季刊で年4回、「RHA通信」を郵送し、WEB閲覧の希望者へはメールで発行のお知らせとログイン情報を配信しました。

また、本活動報告は全会員及び寄付者、FH関係者等にメールや郵送にてご案内しているほか、事業報告の別紙としてホームページでも決算書等とともに公開しています。

③ 啓発活動としての写真展等



沼田代表と浅野靖典さん



満員の会場

ホースメッセが2024年2月10日～12日まで開催され、展示とトークイベントに参加しました。トークイベント「ナイスネイチャが残したものを、そこからつながる引退馬の未来」をテーマに、競馬ライターの浅野靖典さんをMCとして迎え、沼田代表理事とともに、昨年5月に永眠したナイスネイチャについて語り、引退馬支援のこれからについて語りました。会場には立ち見の方を含め200名以上が集まり入場制限もかかるほど大盛況でした。展示エリアは「ナイスネイチャギャラリー」として、ナイスネイチャのパネルや写真、バースデッドネーションにより新たな生活をスタートさせた馬たちの写真を飾りました。株式会社Cygames様のご協力をいただき、『ウマ娘プリティーダービー』に登場するナイスネイチャの等身大パネルを制作、等身大の実馬のナイスネイチャパネルとともに並べて展示をしました。また、漫画家で引退馬協会理事でもあるやまさき拓味さんには漫画の原画やアクリル絵の具による絵画をご提供いただき展示し、大変好評でした。

コロナ禍での同イベント開催時には当会は展示とトークイベントのみで物販は行わなかつ

たため、物販としてのブース参加は4年ぶりの参加となりました。(物販については次項参照)

このほかにも、佐賀競馬場で行われた、佐賀競馬場主催のトークイベントに当会代表の沼田恭子が参加したほか、関西のアジア太平洋トレードセンター(ATC)で開催された「OSAKA ホースフェア 2023 WINTER」にもパネルの展示やパンフレットを置かせていただきました。

④ ロゴマーク入りオリジナルグッズの制作販売



2022年度に『35歳おめでとう！フォスターホース ナイスネイチャ写真集』を出版しましたが、2023年度に本格的な販売が始まりました。2022年度は外注費や写真の二次使用の謝金等のみが発生し、印刷費(約358万円)と売上収入(約662万円)は2023年度に計上しました。写真集は、ホースファクトリーの他、Amazon、JRAの通販サイトや競馬場、会員の皆様を対象として事務局から直接販売を行い、多くの方に喜んでいただくことができました。

その他グッズ関連では、定番のクリアファイルだけでなく、イベントで販売用にTシャツや、FHの缶バッジ、早川恵子氏(バディプロダクション)のデザインによるFHのLINEスタンプのマグネット、トートバッグ、エコバッグなど、日頃要望の多い品目を販売しました。売上金額は約210万円でした。FHカレンダーの販売分の売上(約227万円)も、啓発事業に計上しています。



この他にも、完成と販売は2024年度となりますが、早川恵子さんの『もう一度私たちと夢を見てくれませんか。ナイスネイチャとフォスターホースたち』と、かつて『優駿たちの蹄跡』に掲載されたやまさき拓味さんの名作『引き手綱(て)の重み』の2作品を収録した漫画本を制作しました。印刷と販売は2024年度となります。

⑤ ナイスネイチャ・メモリアルドネーション

昨年5月にナイスネイチャが永眠したため、今年はナイスネイチャ・バースデードネーション(NNBD)を改め「ナイスネイチャ・メモリアルドネーション(NNMD)2024」として、2024年4月16日のナイスネイチャの誕生日から5月15日までの1ヶ月間実施

しました。ナイスネイチャを冠とするドネーションの8回目となった今年度は、33歳の引退繁殖馬支援の対象馬を、国内・海外（PARTI 国）のリステッドレースの勝ち馬に枠を広げご寄付を募ったところ、参加者数 18,479 人、寄付金総額は昨年を上回る 74,889,338 円となりました。支援者数は対前年比 85.5%でしたが、寄付金額は 101.2%で、昨年の実績を超える結果となりました。継続寄付者分と合わせると、さらに総額は増える予定です。

尚、NNMD はナイスネイチャが広めた引退馬支援を毎年思い出し感謝する期間として、今後も継続していく予定です。

ナイスネイチャ・メモリアルドネーション 2024 収支報告

(単位：円)

収入		支出	
寄付	53,012,577	クラウドファンディング手数料	6,409,261
合計	53,012,577	合計	6,409,261
		次年度繰越金	46,603,316
		(内、プール金)	12,000,000

⑥ 牧場見学マナー啓発活動

2023 年度は、牧場見学にたくさんの方が訪れるようになりました。ほとんどの方がマナーを守って見学をしているものの、まだ見学マナーが浸透していない方たちに向け、根気よく SNS やホームページ、会報での情報発信を行っています。印刷物は作成しなかったため、事業費は発生しませんでした。

マナーを知っていても、とりわけ協会の会員は馬が好きな方が多いため、触ってはいけないところでも馬から寄ってきたら無意識に手が伸びて触ってしまうケースがあります。そうしたときは意識して、馬から一步下がるようにしていただきますようお願いいたします。

⑦ ホームページリニューアル

当初の事業計画にありませんでしたが、たくさんの方を受け入れ、ホームページの内容が雑然としてわかりづらくなっていたため、2023 年 12 月に JRA 経由で支給された全国馬主協会から助成金 230 万円を予算として、2023 年度に着手金を支払い、内容の検討が続いています。2024 年度 11 月頃の完成後に残金を支払う予定です。

3) 引退馬ネット事業

引退馬ネット事業は、引退馬協会による対外支援活動です。引退馬の引き取りに関する単発的な相談のほか、長期的にサポートを行っている馬を「サポートホース」（以下、SH）と呼び、SH団体の立ち上げや運営支援、ホーストラストへ預託する馬の保証人を引き受けています。

① 馬の引取り相談

相談者には、引き取り、預託先の紹介や繋養方法などについて適宜アドバイスしています。引退馬支援の機運の高まりもあり、相談が増えています。引き取り後の方針を明確にする必要性など、計画的に馬を引き取ることの大切さも発信していきます。

② SH 団体運営サポート

2023年度中は「エレガントフラッグの会」の設立を承認しました。FHのエアリカコのかつての放牧仲間であったエレガントフラッグは、牧場の元従業員の方が繁殖を引退する際に譲渡を受け、この会を立ち上げました。

会員募集につきましては右 QR コードまたは下記のリンクからご参照ください。



<https://elegantflag.wixsite.com/elegantflag>

また、ホーストラストの預託馬の保証人を引き受けたケースが 1 件ありました。ドリームスイーブルは個人所有の SH として、ホーストラスト（鹿児島）の保証人を引き受けています。35 歳のナイスネイチャ・バースデードネーションの対象馬の年齢引き下げによりすぐにでも FH として受け入れることが可能でしたが、2024 年 12 月末まで個人所有をしてから FH としての譲渡を馬主様が希望されたため、いったんは SH としてサポートすることとなりました。

一方で、2 頭の SH が永眠しました。ブライアンズロマンは 32 歳（満年齢）で天寿をまっとうし、ブライアンズロマンの会が解散となりました。会則にのっとり、残金は引退馬のために役立てるべく、お世話になった荒木牧場様の「荒木牧場功労馬サポーターズ」へ寄付し、お預かりしていた保証金は引退馬協会にご寄付いただきました（2024 年度）。

騎馬隊退役馬のハヤテ（競走名グランスクセイ）は、29 歳で永眠しました。ハヤテの会は、解散せず「ハヤテから幸希へ絆（つな）ぐ会」として、新しく縁のあった騎馬隊退役馬の幸希（競走名ゲットブラック）を 2024 年度に迎え入れました。

亡くなった両馬のご冥福をお祈りいたします。



エレガントフラッグ
(新 SH)
エレガントフラッグの会



ドリームスイーブル
(新 SH)
個人所有



ブライアンズロマン
享年 32 歳
ブライアンズロマンの会



ハヤテ
(グランスクセー)
享年 29 歳
ハヤテの会

2023 年度 サポートホース (SH) の異動

サポートホース	サポート対象団体	繋養先及び移動
ブライアンズロマン	ブライアンズロマンの会	荒木牧場 2023 年 12 月 10 日永眠
エレガントフラッグ	エレガントフラッグの会	キクチファーム 新規設立
ハヤテ (グランスクセー)	ハヤテの会→ 「ハヤテから幸希へ絆 (つな) ぐ会」として継続	マーサファーム 2024 年 4 月 1 日永眠
幸希 (ゲットブラック) (2024 年度)		マーサファーム 2024 年 7 月 3 日に移動
ドリームスイーブル	(個人所有/ホーストラスト保 証人)	NPO 法人ホーストラスト

財源に JRA の奨励金を充てている SH (条件があります) を対象とした医療費助成は、予防接種・駆虫代・健康診断を除き 1 頭あたり年間 10 万円を上限に支給しています。2023 年度の医療費助成金の支給額は 850,238 円でした。健康状態により 10 万円満額を支給した馬がいる一方、まったく申請のないケースもあります。助成制度は整歯も対象としているため、健康状態が良好な馬については整歯に積極的に活用されることを期待しています。

4) フォスターペアレント (FP) 事業

FH が終生穏やかで幸せに元気に暮らせるように支援していただく里親=フォスターペアレント (以下、FP) 制度によって、FH たちを安定して繋養する、引退馬協会の基幹事業

です。里親制度の運営、FHの預託など、FHに関わる事業はすべてFP事業となります。FHの繋養頭数は、年度末の2024年5月末で42頭（現時点で45頭）となっています。

① 引退馬の繋養を支える里親制度の運営

人気馬に支援が集中する傾向がありますが、口数の多い馬が、少ない馬を養う相互扶助の考え方を取り入れているため、均等に支援が集まらなくても運営上は問題ありません。しかしながら、極端な片寄りを防ぐために、1口で全頭を支える被災馬FPや、支援馬を特定しないFPを除き、80口で受け付けを停止していましたが、ナイスネイチャ・パースデードネーションでFHになった馬が増えたものの、FP会員が一桁の馬が多いため、また、好きな馬のFPになりたいなどの要望も多かったため、2024年度には受付を停止していたメイショウドトウ、ナイスゴールド、ディープスカイ、メイショウサムソンのFP募集を再開しています。

FP会員の皆様には、FHカレンダーのプレゼントのほか、感謝を込めてポートレート集“Fosterhorse Portrait 2023”と付随する“Fosterhorse Profile 2023”を制作し送付しました。特定のFHにご支援いただいている方には、その馬の生写真をお配りしました。

② FHの繋養

合計13頭が新たにFHとなりました。また、受入れは2024年度となりますが、2023年度中に受入れが決まった馬は3頭です。

【2023年度年中に受け入れた新規FH】



アサクサデンエン
35歳 NNBD
北海道南幌町
南幌ライディングパーク



ザッツザブレンティ
35歳 NNBD
北海道南幌町
南幌ライディングパーク



ナムラタイタン
35歳 NNBD
北海道白老町
社台牧場



レーヴミストラル
35歳 NNBD
—
永眠（享年12歳）



マルカハンニバル
35歳 NNBD
長野県飯田町
美義屋牧場



ナムラシゲコ
33歳 NNBD
北海道浦河町
小葉松幸雄牧場



テンセイフジ
35歳 NNBD
北海道浦河町
小葉松幸雄牧場



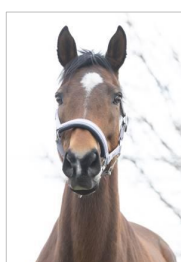
ポップコーンジャズ
33歳 NNBD
北海道浦河町
東栄牧場



ライラプス
35歳 NNBD
北海道浦河町
東栄牧場



マリーンウィナー
33歳 NNBD
北海道浦河町
東栄牧場



トリップオブラブ
再就職支援プログラムから
鹿児島県湧水町
NPO法人ホーストラスト



ブラックバゴ
35歳 NNBD
千葉県香取市
乗馬倶楽部イグレット



オールージュ
~~(35歳 NNBD)~~
長野県飯島町
美義屋牧場

【2023年度年中に受け入れが決定した2024年度からのFH】



クラリティスカイ
35歳 NNBD
高知県土佐清水市
あしずりダディー牧場 命の会



モルトバーネ
35歳 NNBD
高知県土佐清水市
あしずりダディー牧場 命の会



アポロティアモ
35歳 NNBD
高知県土佐清水市
あしずりダディー牧場 命の会

33歳のナイスネイチャ・バースデードネーションでは2022年度までに受け入れた18頭に加え、新たに重賞馬を輩出した引退繁殖牝馬のナムラシゲコ（ナムラビクターを輩出）、ポップコーンジャズ（ラブリーデー、ボッケリーニを輩出）、マリーンウィナー（ホワイトフーガを輩出）が加わり、計21頭となりました。

重賞勝ち馬として 35 歳のナイスネイチャ・バースデードネーションの対象馬は、2022 年度に受け入れた 3 頭に加え、新たにアサクサデンエン、ザッツザプレンティ、ナムラタイタン、レーヴミストラル（疝痛のため永眠）、マルカハンニバル、テンセイフジ、ライラブス、ブラックバゴ、オールージュの計 9 頭を受け入れました。さらにはクラリティスカイ、モルトベーネ、アポロティアモの高知競馬ゆかりの 3 頭が内定、7 月に引き渡しとなっています。

ブラックバゴにつきましては、当初鹿児島ホーストラストへ移動する予定で乗馬倶楽部イグレットには去勢手術のために移動しましたが、ふれあいホースの資質が高いためこのまま千葉に繋養することとなりました。

33 歳、35 歳のナイスネイチャ・バースデードネーション受け入れ対象馬は、一年間はそれぞれのドネーションの寄付の基金から、預託料や飼料費や馬着等の馬消耗品費、馬運代等を負担していきます。

トリップオブラブは、前年度に FH となったヴァーゲンザイル同様、再就職支援プログラムでリトレーニングをしてきましたが、疝痛になりやすく飼養管理が困難なため、譲渡することを断念し FH となりました

【2023 年度の永眠馬】

馬名	享年 (満年齢)	没年月日	死亡理由
レーヴミストラル	12	2023 年 10 月 3 日	疝痛

2023 年度は、まだ 12 歳と若く FH になったばかりのレーヴミストラルが永眠しました。疝痛を発症し、三石の高度診療センターへ移送中に息を引き取りました。FP 会員様はじめ会員の皆様、日頃より愛情を注いで管理して下さったグリーンマイルトレーニングセンターならびにサンバマウンテンファームの皆様にご心より御礼申し上げます。レーヴミストラルのご冥福をお祈りいたします。

新規 FH、永眠した FH で名前の登場していない FH についてもご報告申し上げます。

北海道に繋養中の馬では、タイキフォーチュンは餌の工夫により食欲も旺盛で身体も以前よりだいぶふっくらし、元気にしています。エアリカコは神経系と思われる脚部不安がありますが、元気に走り回れるほどに回復し、仲良しのミラキュラス (SH) との放牧を楽しんでいます。

メイショウドトウは2月23日に疝痛を発症、消化しきれない餌の固い繊維が腸に詰まりその重みで変位し、三石の家畜高度医療センター（NOSAI 日高支所家畜高度医療センター）にて開腹手術となりました。幸いにも獣医師の早い判断と適切な対応で事なきを得ました。診療所までの馬運は、繁殖シーズンにも関わらずテイエムプリキュアの故郷のタニグチ牧場社長の谷口氏が引き受けてくださりましたが、ドトウの搬送は馬運車を持たない養老牧場や養老牧場に馬を預けている馬主様が、いざというときどうやって馬を運ぶかを考えるきっかけとなりました。

ナイスゴールドはニンジンなどのおやつはあげることができませんが、特殊装蹄によりQOL（Quality of Life＝生活の質）を維持しています。モアザンベストは群れの中では弱い存在ですが、見学者からもらうニンジンを楽しみにしています。

前年度までリードホースとして働いていたマンダララ、昼夜放牧で過ごしていたノボキッスの2頭は、MTH ケイズに移動し穏やかに暮らしています。バトルプランは当初単独放牧でしたが、仲間と一緒に放牧のほうが運動量も増えるとの配慮から、集団放牧の生活となりました。ダノンシャークは蹄が薄く痛みが出やすいことから特殊装蹄をし、痛みをコントロールしています。

ディープスカイは皮膚が弱いですが元気です。メイショウサムソンは前年度に開腹手術をしましたが、その後は元気に過ごしてくれています。メイショウボーラーは、FH になった当初は眼付が鋭かったのですが、今はすっかりリラックスした表情になりました。ボーラーも開腹手術の既往歴があり、毎年疝痛になると前繋養先の申し送りがあり、サプリメント等で予防を行っています。

オースミコスモは検査の結果クッシング病（PPID）を示す ACTH の数値が高かったことからペルゴリドの服用を開始しました。また、股関節が弱っているなど、心配な要素があります。エスワンスペクターは毎日の放牧を楽しみに、問題なく元気に過ごしています。テイエムプリキュアは持病の蹄葉炎の悪化はありませんが、クッシング（PPID）との診断を受け、ペルゴリドの投薬を開始しています。

フサイチバルドルはFH になった当初問題のあった蹄も改善しています。預託先の荒木牧場の荒木氏が装蹄師でもあるので心強い限りです。

千葉では、コアレスピューマが乗ってよし、引いてよしの、オールラウンダーの FH として再開した「FH と過ごす日」で大活躍です。ルックトゥワイスは、乗馬としてはまだまだですが、ルックトゥワイスならではのサービス精神で FH の役割を果たしています。クレスコブランドは食いしん坊で早食いのため、ゆっくり食べる工夫をしていますが、体質的に弱いところがあり、サプリメント等を与え健康維持に努めています。タービランスも去勢手術を実施してからの回復に時間がかかり、クレスコ同様サプリメントで健康維持に努めています。

青森のタイキポーラとデフィニットは大変仲が良く、お互いが大きな存在になっているようです。

福島のヴァーゲンザイルは息労（呼吸器のアレルギー疾患）があるため、乾草を蒸気で蒸す「ヘイスチーマー」を購入し、毎日蒸した乾草を給餌しています。アレルギーの防止になるだけでなく食味も上がり、食べやすくなります。被災馬 FH のおにくん（ナイキプラネット）は健康優良児で元気いっぱいです。コテツは元気いっぱい、牧場の馬たちのボスとして仲間の馬たちをいつも気にかけています。

鹿児島のサマーナイトシティはクッシング（PPID）を示す ACTH 値が 2023 年 12 月の時点で陽性でしたが、2024 年 3 月の検査では正常の範囲内でした。何か目立った変化があれば対応していただきます。ハギノハイブリッドは一時怪我による運動制限のため厩舎のある放牧地に移動していましたが、元の放牧地へもどり、ボスの座に復帰しています。被災馬 FH のハーモニイトセチャンは大きな放牧地で仲良しの馬たちとともにマイペースで過ごしています。コッチャン（トーセンクレイジー）は運動制限のため、この一年も馬房のある厩舎で過ごしています。調子がよいときはパドックの放牧を楽しんでいます。ハーモニイフラは怪我や病気もなく仲良しの馬と穏やかに過ごしています。

30 歳以上の馬には引退馬協会独自の制度として、預託料とは別に高齢馬飼養管理手当（月額税込み 3 万円）を支給しています。2023 年度の対象馬は、タイキフォーチュンのみでした。また、傷病管理は契約上では預託料の範囲で牧場側に行っていただくことになっていますが、高齢馬管理手当の対象とならない馬でも、看護の負担が大きくなることが少なくありません。看護内容をポイントにより評価し、一定額を超えた場合に月額 1 万円～3 万円を必要に応じて傷病看護手当を支給することが決まり、一部で試験運用が始まった 2022 年度にさかのぼって申請を受け付けています。



FH 最高齢のタイキフォーチュン

③ FH に関わる情報発信と会員向け「FH リポート」の発行

FH に関わる情報発信は、ホームページに掲載している近況報告ブログと、FH リポートがあります。馬の頭数が増えたことから、取材スタッフ、ブログの更新スタッフを増やし対応しています。FH リポートは、郵送での送付は FP 会員限定となりますが、WEB 購読の場合は会員ならどなたでも、ホームページの会員専用ページでご覧いただけます。発行は年 12 回です。内容は、会のホームページ内の近況報告ブログと同じ内容ですが、すべての FH の近況をまとめて読むことができます。

④ FH カレンダー制作販売

2023 年度に制作した 2024 年の FH カレンダーは馬が増えたことにより、従来の壁掛け式の「FH カレンダー2024」と「卓上カレンダー-FH セレクション 2024」の 2 種類を制作しました。FP 会員の皆様には会員特典として壁掛け式と卓上カレンダーの 2 種類贈呈したほか、2023 年 10 月から壁掛け式は前年より 300 円値上げをし、1,300 円、卓上カレンダーは一部 1,000 円で販売しました。2 種類制作したことで、販売分が割れてしまい現在も在庫が残っている状況です。制作方針の見直しを行って参ります。カレンダーの売上は啓発事業収益に含まれています。また、無償配布分と収益事業（非営利）の売上分の経費管理のため、税務申告の都合上かかった費用の 50%のみカレンダーの経費とし、残りはプレゼント分のため「会員制度」として経費を計上しています。

2023 年の事業では 2024 年カレンダーの販売と並行して、2025 年カレンダーの撮影を行いました。撮影した写真は、カレンダーだけでなく、広報やグッズ、FP 会員向け FP 少々、寄附金受領書送付時のお礼状等、さまざまな用途に活用しています。

⑤ 被災馬 FH 預託

東日本大震災で被災したコッチャン（トーセンクレイジー）、ハーモニイトセチャン、ハーモニィフラをホーストラスト（鹿児島）に、おにくん（ナイキプラネット）を福島県南相馬市の厩舎「みちくさ」に、コテツ（ルージュビクトリー）を福島県川内村の「みどりのまきば」黒澤牧場に被災馬 FH として預託しています。

被災馬 FH の預託にかかる経費は、2014 年度までは被災馬支援基金から支出していましたが、一時基金の残高が減少したため、2015 年度からは保証金や馬運代など一部の経費を除き FP 事業として、被災馬 FP 会員の皆様からの会費を中心に支出しています。

5) 協賛事業及び後援事業

2023 年度は実施しませんでした。

6) 上記 5 つの事業から派生するその他事業

① 被災馬支援活動

- (1) 被災馬の見守り
- (2) 被災馬支援基金
- (3) 被災馬情報発信

前述の（１）～（３）を行っています。

東日本大震災から 13 年が経ち、見守り中の被災馬 27 頭です。被災馬支援基金を財源として、経済状況が変わった飼養者の飼料支援や医療費支援（1 頭年間 10 万円まで）を行っています。2023 年度の助成金額は 633,950 円でした。

被災馬 FH の繋養にかかる経費については、「FP 事業」における会費収入により負担しています。

② 「次の馬生」支援活動

協会からの譲渡馬の見守り、33 歳・35 歳ナイスネイチャ・バーステードネーション（NNBD）の受入れ対象馬の繋養が主な活動となっております。

（１）ハッピーライフプロジェクト

ハッピーライフカバーの配布や検討手帳の貼り付けシールの作成等は実施しませんでした。

（２）健康手帳貼り付けシールの作成

実施しませんでした。

（３）協会からの譲渡馬見守り

かつて再就職支援プログラム等で引退馬協会が譲渡した馬の健康診断のため専門家を派遣して順次健康診断を実施しています。必要に応じてマッサージや飼養相談もおこなっています。再就職支援の譲渡馬に対して JRA の奨励金から傷病の治療費、整歯代等を助成しています。本事業において支給した助成金は、857,415 円でした。

（４）騎馬隊退役馬支援

騎馬隊退役馬の次の馬生の見守りをしています。警視庁騎馬隊の民間引き渡しの際の中間支援を行っています。

SH の ハヤテ（グランスクセー）亡き後、騎馬隊退役馬の受入れを希望したハヤテの会に代わり、警視庁騎馬隊へ問い合わせ、幸希（ゲットブラック）の次の馬生への道筋をつけました。

（５）33 歳 NNBD 受け入れ馬（引退繁殖馬）支援

2022 年度までに 33 歳 NNBD のご寄付（功労繁殖馬支援基金）により受け入れた馬の経費負担は FP 事業に移行し、2023 年度末の時点では 3 頭（ナムラシゲコ、ポップコーンジャズ、マリーヌウィナー）の経費を 33 歳 NNBD

のご寄付より支出しました。(新 FH 関連は「FP 事業」に掲載しています。) 33 歳 NNBD の残高 11,425,527 円は、2024 年度へ指定正味財産 (使途の決められた資産) として繰り越します。

2024 年度からは NNMD2024 のご寄付の活用できるため、現在の 3 頭の経費を負担したあとの残高は、当初のお約束通り将来のリスクのためのセーフティネット積立資産に振り替える予定です。

ナイスネイチャ 33 歳のバースデードネーション (2023 年度) 収支報告

(単位: 円)

収入		支出	
前年度繰越金	14,702,117	預託料	3,052,720
寄付	36,000	飼料費	-
		装蹄料	47,200
		馬医療費	134,600
		馬運代	11,000
		馬消耗品費	51,410
		振込手数料	660
		雑費	15,000
合計	14,738,117	合計	3,321,590
		次年度繰越金	11,425,527
		(内、プール金)	6,000,000

(6) 35 歳 NNBD 受け入れ馬 (重賞馬) 支援

35 歳 NNBD のご寄付 (重賞馬支援基金) により受け入れた馬の経費の最初の一年分を 35 歳 NNBD のご寄付より支出することになっており、既に 2022 年度に受け入れた 3 頭 (フサイチバルドル、タービランス、テイエムプリキユア) は、2023 年度末をもって通常の FP 事業の会計に経費負担が移行しています。新たに 2023 年度に受け入れた馬も、一年の経過をもって順次移行します。

35 歳 NNBD からの支出は、クラウドファンディングの手数料や若干の振込手数料をのぞき、すべて馬にかかる経費のみを拠出することになっていますが、2022 年のクラウドファンディング手数料が特定資産 (使途が制限された資産) から差し引かないままとなっているため、2024 年度にて振り替える予定です。

ナイスネイチャ 35歳のバースデードネーション 2023年度収支報告

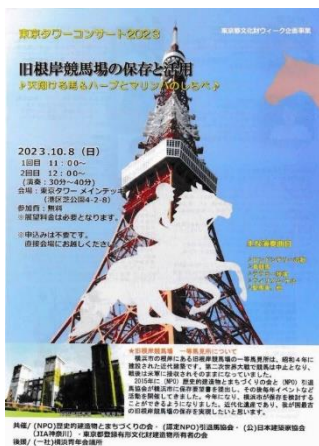
(単位：円)

収入		支出	
前年度繰越金	54,805,782	預託料	12,776,598
寄付 (2023年度入金)	26,526,556	飼料費	715,152
		装蹄料	405,300
		馬医療費	1,132,216
		馬運代	300,500
		馬消耗品費	1,254,122
		保険料	27,565
		振込手数料	10,365
		雑費	18,929
		クラウドファンディング手数料	3,168,121
合計	81,332,338	合計	19,808,868
		次年度繰越金	61,523,470
		(内、プール金)	12,000,000
		(内、未振替特定資産)	6,618,527

※クラウドファンディング手数料 2022年度分 6,618,527円 が特定資産から振替もれのため2024年で振替ます。

③ 根岸競馬場跡保存活動と協働による啓発活動

2023年10月8日(日)、東京タワーメインデッキにて「旧根岸競馬場の保存と活用 ♪天翔ける馬&ハープとマリンバのしらべ♪」が引退馬協会はじめ4団体の共催で開催されました。旧根岸競馬場一等馬見所(観覧スタンド)をモチーフとした大型タペストリーを背景に、ハープとシンセサイザー、そして今年はマリンバも加わって、ミニコンサートが行われました。「駅馬車」など馬にまつわる名曲が次々と演奏され、満員のお客様は拍手喝采、大いに盛り上がりました。



今回、引退馬協会では、一等馬見所のある風景が印象的に描かれたアニメーション映画『未来のミライ』(監督・脚本/細田守、制作/スタジオ地図)を展示パネルとチラシに使わせていただきました。コンサートの冒頭、沼田代表が壇上で旧根岸競馬場について解説、『未来のミライ』でも描かれたように、ランドマークとして人々のくらしとともに存在する旧根岸競馬場を保存し、活用していくことの重要性を述べました。45分ほどのイベントを2回開催しました。イベントでは、引退馬協会

のパネル展示及び啓発チラシの配布も行いました。異業種団体と協働は、新たな層に引退馬への関心を広めていくきっかけづくりとして役立っています。

共催： NPO 法人 歴史的建造物とまちづくりの会
認定 NPO 法人 引退馬協会
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 神奈川地域会 (JIA 神奈川)
東京都登録有形文化財建造物所有者の会
後援： 一般社団法人横浜青年会議所

7) その他の事業（営利事業）

2023 年度は実施しませんでした。

2024 年度に向けて

35 歳 NNBD（重賞馬支援基金）、NNMD2024（功労繁殖馬支援基金）のご寄付を有効に使用し、地方を含む重賞馬、引退繁殖馬を FH として迎え入れ、用途を明朗にして参ります。また、2023 年度までに迎えた再就職支援プログラムの受講生たちが卒業できるよう、譲渡先候補とのマッチングを進めます。既に 34 歳 NNBD による再就職支援基金の残高が少なくなってきたことから、2024 年度は通常事業として行って参ります。ただし、馬の療養のために充てられた休養期間の預託料助成は 34 歳 NNBD によるご寄付より続けていく方針です。

2024 年度からはツアーも再開して参ります。まずは 10 月の福島ツアーと 11 月の鹿児島ツアーから実施し、北海道についてはまずはミニツアーから計画して参ります。たくさんの方にご参加いただけましたら幸いです。

2024 年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。